

みんなのアイデアde賞

国際モダンホスピタルショウ2018では、特別企画として『現場のひらめきをカタチに！ 第11回みんなのアイデアde賞』を実施しました。

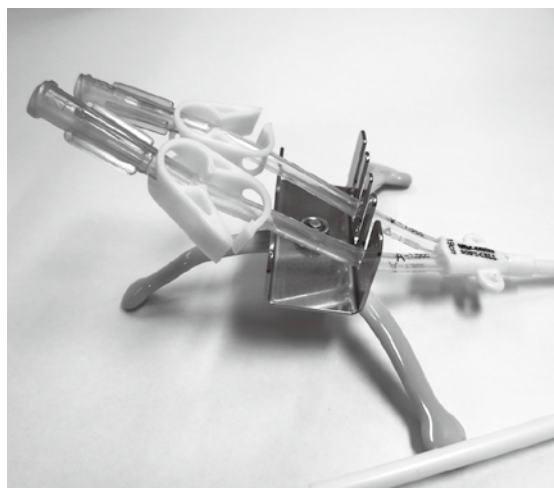
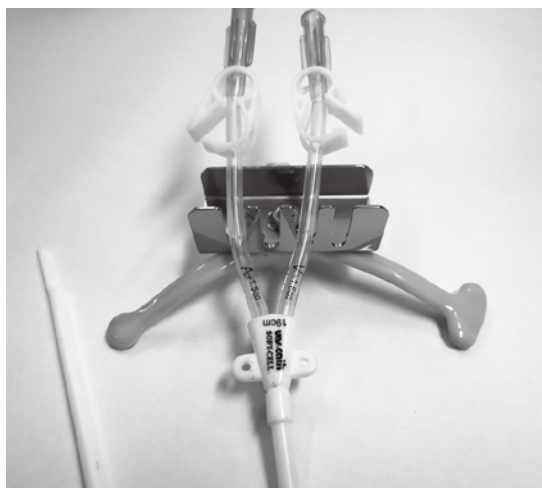
医療・介護施設等のさまざまな部門において、患者・介護者の治療やケアに直接的・間接的に携わる方々の着眼から生み出された、現場ならではの画期的な改善の工夫やアイデアの数々を幅広く募集しました。本年は27団体35作品の応募があり審査会において、グランプリ1点、準グランプリ2点、さらに『らく de 賞』1点、『まごころde賞』1点、『アクセサリ感覚でつくれるde賞』1点、『特別賞（チームの見える化）』1団体選ばれました。

審査にあたっては、あらかじめ応募者から提出していただいた「作品を開発・工夫したきっかけ・背景」「作品の特徴・改善工夫のポイント」「使用した時の利点・利便・有効性」「実際の現場での使用状況とその評価」「院内安全委員会で事前に検討されたか」等についてのレポートを中心に、さらにネーミングや、ケアする側とケアされる側の双方からの視点での評価や、医療の質の向上への貢献度についても加味し、審査されました。



カテーテル受け台

カテーテルの接続口が他の物に触れないように置いておけるホルダー。
内頸静脈に挿入されたカテーテルにルートを接続する際、接続口が不潔にならないように片手でカテーテルを保持している必要があった。カテーテル接続口を安定的に固定することで、カテーテルとルートの接続手技が未熟なスタッフが実施しても感染リスクを軽減することができる。ICU・救急病棟・血液浄化センターでは、常時2～3個所持しており、処置時毎回使用している。カテーテルホルダーがないと処置ができないスタッフがいるほど浸透しており、使いやすく評価は高い。





特定医療法人 樟純会 榊原温泉病院

災害時足踏み式吸引器

安価で作成した足踏み式吸引器。

吸引の必要な患者さんが多く入院しているため、災害発生時に備え安価で吸引器が作成できないかと考えた。空気入れの陰圧を利用し、ベッドのスプリングラーのばねを使用、足踏みで吸引を可能に改良した。また、中央配管で使用する壁掛け吸引器も使用可能である。足踏み式のため、吸引動作も一人で可能である。また、足踏み式とジョイントを交換すれば移動し、複数の患者に対応できる。粘稠度の高い喀痰、口腔内の喀痰の吸引が可能。また、吸引後の処理も容易である。

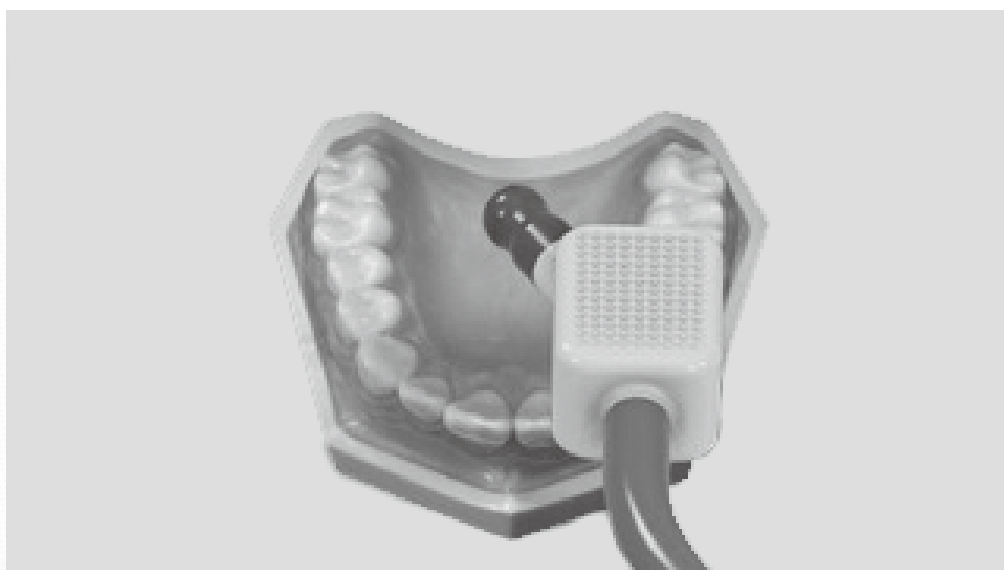
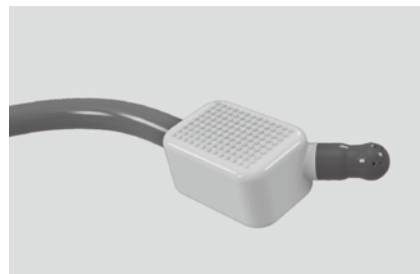




誤嚥防止用嚙むストロー

ストローの一部がポンプになっており、噛むことで水分補給ができるメディカルストロー。

ポンプに逆止弁を設けることで寝たままでもこぼれない設計となっている。高齢者の死因の上位を誤嚥性肺炎が占めていることから、嚥下機能の低下した被介護者や患者さんのQOL向上を目指して開発した。このメディカルストローは嚥下しやすい人には有益でやさしく、噛む力が残っている人には便利なストローである。





公益社団法人昭和会 今給黎総合病院

吸引楽ラック

患者さんの床頭台の整理整頓に役立つラック。頻回に吸引する患者さんの床頭台に設置して使用する。

患者さんの床頭台に看護用品が煩雑に置かれている状況があった。狭い病室での看護ケアの効率化、感染防止を考慮した整理整頓が必要と思われた。この吸引楽ラックは、床頭台が場所を取らずに必要な物品が整理できるよう考案した。患者さんに応じた物品のセットができ、床頭台の左右どちらにもセットでき、床頭台がスッキリした。物品をわざわざ取りにいかなくてよいので、すぐにケア（吸引）ができるようになった。





まごころポンチョ

患者さんが手術室で使用するポンチョ。

手術室入室から麻酔導入までの間、上半身の衣類を脱ぐ際に「寒い。人前で裸になるのが恥ずかしい」という患者さんの声があった。バスタオルにゴムを通しボタンをつけポンチョを作成した。工夫した点は、①肌触りのよい生地を選定、②首元にゴムを通すことで上から衣類が脱ぎやすい、③首元のボタンを外せばポンチョからバスタオルに代わる、など。肌触りがよく心地よく暖かいことで、患者さんは落ち着き不安は軽減され、医療者の前で肌の露出を最小限に抑えられることで、羞恥心も軽減された。



後面(ボタン開)



後面



前面



医療法人雪の聖母会 聖マリアヘルスケアセンター

プラスチック粘土とレジン液で作れる 簡単自助具

患者さん個人に合わせて、安価に作成することのできる食事動作自助具。筋力低下、麻痺により食事動作の支援として自助具が必要な患者さんがいる。これまで身近にあるもので自助具を作成し使っていたが、耐久性と衛生面に問題があった。検討した結果、安価で患者の手の形に合わせて自由に行うことができるプラスチック粘土をレジン液でコーティングすることを思いついた。素材は100円ショップの製品を使用しているため、500～1000円で作成することができる。個人個人に合わせた手作り感があり、自助具がアクセサリー感覚で作れ、きれいである。





医療法人財団献心会 川越胃腸病院

『病院の见えないおシゴトの見える化』による 委託スタッフのモチベーションアップ

給食・清掃・保育などの委託業務の仕事内容をパネル掲示し、委託スタッフのモチベーションアップを図る試み。

給食・清掃・保育などの委託業務は診療活動を支える重要な役割を果たしているが患者さんと交流する機会は少ない。患者さんの目に触れることの少ない委託業務の仕事風景をパネルで紹介し、文字を少なく写真を主体とする見やすさへの工夫を行った。その結果、委託職員（縁の下の力持ち）のモチベーション向上が図られ、患者さんから委託スタッフに話しかけられる回数（会話）が増加した。



床ずれラックン お尻用

飯田市立病院

体幹に装着する褥瘡予防器具(オムツのような形態)。呼吸困難症状の緩和などのために、常にヘッドアップ姿勢を保持せざるを得ない患者さんの褥瘡の予防と改善を図り、安楽の提供をしたいと考えた。体幹に装着でき、かつ両臀部を高くすることにより、ヘッドアップ姿勢で最も荷重が加わる仙骨部から尾骨部の除圧を図った。ヘッドアップ姿勢を保持せざるを得ない状況下でも褥瘡の予防と改善が図れ、患者さんの満足度も高く、退院後の在宅療養でも活用できた。

女性用自己導尿時の鏡固定具

久留米大学医療センター

女性患者の自己導尿時の補助用具。女性で、胸郭出口症候群があり、上肢の動きが悪く、神経因性膀胱で自己導尿が必要だが外尿道口が分りにくい患者さんのために作成した。この補助具で、女性患者は便座に座った時に鏡を固定し、同時に、尿道口に光を照らすことが出来る。そのため、自己導尿時の外尿道口がわかりやすく、手技が行えるようになった。患者さんからは、「使いやすい。手技の指導はあっても、初めてこんな物を作ってもらって助かる。周りに紹介したい!」との声があった。

抜針予防保護具

金沢医科大学病院

自己抜針リスクの高い患者さん用に開発した、患者さんには外しにくく、スタッフには外し易い抜針予防保護具。認知症や行動障害による自己抜針リスクの高い患者さんが増加している。穿刺部のテープ固定を強化し、ミトンやアームホルダーで身体抑制する事により安全確保していたが、抑制帯による身体抑制ではかえって不穏行動を招きやすいため、治療が安全・安楽に受けられる抜針予防保護具の必要性を感じていた。この予防保護具は、穿刺部の観察が容易で、長時間の使用でも蒸れがなく、抑制感がない為安楽な肢位で治療ができる。

摘便シミュレーター

浜松医科大学

臀部の素材に頸まくら(100 均)を使用し、安価(1000 円～ 1500 円)に手作りできる摘便シミュレーター。在宅看護学実習で使用する。演習に摘便が必要な事例を取り入れ、学生が看護師役として自然排便の指導と摘便の技術を体験すると共に、療養者役も演じ療養者の立場を理解して羞恥心への配慮を学ぶ機会を作りたいと考えたことが開発のきっかけ。この摘便シミュレーターで、学生は真剣な表情で看護師役を演じ一連の技術に取り組むことができていた。

ステッキフック

労働者健康安全機構 新潟労災病院

ベッド柵や自販機など磁石がくっつく材質につけることができる杖。杖を持っていて他の動作が必要になった場合、杖が倒れるなどして杖の置き場所に困ることがある。常に杖に装着しておいても邪魔にならず、磁石がくっつく材質であればそのまま使用できるというメリットがある。使用の際に力が要らないし、倒れにくい。この機能がある杖は販売されていない。杖を手から離して操作する際にはとても便利(自販機は特に)である。

内視鏡まくら

金沢市立病院 看護部

不快な気持ちにならずに胃カメラ(上部内視鏡)を受けることができるまくら。胃カメラでは、受診者は左向きになり、おせないよう唾液は飲み込まずに出してもらおう。そのため髪の毛や頬が唾液で汚れてしまうことがある。検査後に汚れて不快にならずに済むという気持ちからこのまくらを開発した。①三層構造による頬へのフィット感、②傾斜をつけて唾液が流れやすい角度、③ナイロン素材の清潔なカバーの 3 点を工夫した。唾液が頬でフィットしたまくらから流れおちるため、広範囲に汚れなくなった。

大腸内視鏡用下肢枕

社会医療法人社団三思会 東名厚木病院 看護検査科

大腸内視鏡検査の仰臥位時に足を安定させるために使用する下肢枕。患者さんから大腸内視鏡検査の仰臥位時に「足が滑って検査に集中できない。お腹に力が入ってしまう」と訴えがあり、患者さんの苦痛軽減を目的として下肢枕を作成した。下肢枕の底辺にスポンジを配置することで下肢枕の安定性を高め、型崩れを防止するため圧縮したままの綿を使用した。以前は直接介助者が全例の下肢を支えていたが、下肢枕を使用することで安定性が向上したため、83%の患者さんは下肢を支えずに施行する事が出来た。

Coro-Navi

医療法人社団康心会 湘南東部総合病院

医療者指導用の冠動脈説明ツール。ゴムボールを使用し低コスト。作製がシンプルで、透明なゴムボールに油性マジックで冠動脈の絵を描くというもの。既存のもので冠動脈の模型もあるが、高価なため施設にある数も少なく、落としてしまうと破損してしまふ。Coro-Navi の素材はゴムなので落としても壊れることがない。安価で量産も可能。最大の特徴は、透明のため、反対側(向こう側)の枝が透けて見える点で、アンギオ装置の角度を合わせると得られる情報が一緻する。

T字杖のベッド柵固定用具

久留米大学医療センター

クリップと洗濯ばさみを用い、T字杖をベッド柵に固定する用具。整形外科病棟では、杖を使用する患者さんが多く、ベットサイドに杖を置く場所がない状況があった。また、杖が倒れる音が響いていた。患者さんの皮膚損傷予防や感染面を考え、素材は拭き上げ可能なプラスチック(クリップ、洗濯ばさみ)を使用した。ベットサイドの安全で患者さんが使用しやすい場所に杖を固定することができるし、高齢者でも使いやすく、杖を倒すことがなくなった。

骨折予防寝衣

医療法人敬天会 武田病院

腕を通す必要のない寝衣。何度も体の向きを変えなくても、また、無理に腕を伸ばさなくても更衣ができる骨折予防寝衣。全介助を要する患者さんの入浴介助を行ったとき、寝衣の着脱に時間がかかり、患者さんも職員も負担になっているように見えた。また、着脱の時、上肢を無理に伸ばしている現状があり、骨折が懸念された。そこで上肢を通さなくても更衣ができる方法はないかと考えた。更衣の時間が短縮でき、介助者の負担が軽減できた。特に寝たきりの患者さんの負担が軽減できた。

ステッキホルダー

労働者健康安全機構 新潟労災病院

テレビ台の左右どちらにも設置が可能で、マヒ側を考慮して設置ができるステッキホルダー。片手だけの動作で取り出し、収納ができる。ベッド周囲に杖を固定する場所が無く、倒れた杖を坐位で拾おうとした患者さんが転倒しそうになるインシデントがあった。市販品は、細かい動作ができる人でなければ使えないが、製作品は患者さんの機能の程度に合わせて選択できる。また同一場所に保管できるため、整理されて安全な環境が保てる。

特浴介助用スライド式マット

セントマーガレット病院

これまで使用してきた特浴介助用スライド式マットが劣化したため、マットカバーの材質を変更して作成した。マットカバーを布製のものから、半透明のビニール袋(70ℓのゴミ袋 2 枚)をつなぎ合わせたものへ変更した。布製はマットの保護には優れていたが、防水力が弱く、衛生面の心配もあった。ビニール製は、マットの保護力・防水力・摩擦力を兼ね備え、余計な負担なくスムーズにスライド移動ができ、汚染してもさっと洗い流すことができる。

いきいきサーキットvol.2

医療法人大社会 久喜すずのき病院

作業療法の一環として実施していたプログラム(いきいきサーキット)に運動療法・回想療法・学習療法の要素を取り込みバージョンアップした。OT プログラム実施以外の時間にも楽しめるように、また自発的に活動してほしいという思いがあった。正解を見やすいよう、カードの 1 枚目に持ち手を付けたり、飽きないように定期的に内容を変えるなどの工夫を行った。歩きながら行うことや、カードをめくる動作が運動となるし、回想療法や学習療法の要素を取り込むことで、興味を持ちやすいプログラムとなった。

掻きこわし知らず

社会福祉法人横浜博萌会 特別養護老人ホームしらゆり園

リント布を使用した掻きおしり予防着。利用者に掻痒感が強く、内服・外用薬を使用してもすぐに掻破痕が出来るほどの皮膚トラブルを繰り返していた方がいたことがきっかけ。予防着には、保湿効果の高いリント布やネルを使用し、簡単に着脱できるものにした。リント布は、ガーゼと違いそれほど通気性が無い為、あまり薬が染み出さずに、皮膚を保護することが出来る。予防着を使用する様になってからは掻きおしりが減り、掻くことがあっても傷にならずに経過している。

フットサポートカバー

国立病院機構 相模原病院

移乗介助時に車椅子のフットサポートに足が接触しても皮膚損傷がおきにくいカバー。
当院はフットサポートを取り外せる車椅子に限りがあり、標準型の車椅子を多く使用している。標準型の車椅子移乗介助の際に、患者さんの足が固定されたフットサポートに接触し皮膚損傷があった。そこで、足が接触しても安全に移乗が行えることが必要と考え、①カバーは柔軟性のある平面な板状で鋭利な部分が無い、②フットサポートの裏や上部、フットサポート調整ボルトなど鋭利な部分のすべてを覆うことができる、などを工夫しカバーを作成した。

次亜塩素酸ナトリウム【非刺激性】を使用したお掃除ワイパー

西村 富太郎

ノロウイルスに対して有効な次亜塩素酸ナトリウムを沁み込ませた不織布。
在宅の両親（共に 80 歳以上）の健康を考え、ノロウイルス対策等のため、ウエットティッシュ感覚でドアノブやテーブルが手軽に拭ける使い捨てワイパーを考案した。簡単、便利がコンセプトで、素手で次亜塩素酸ナトリウム（200ppm）を使えるよう、非刺激性のものを利用した。また、ワイパーもバルブを含まないものを使用したので、利用開始 1 か月後に有効塩素の減衰を心配したが、200ppm を維持していた。老人でも安全（素手で）に、かつ手軽に使える。

次世代ナースコール

公益社団法人地域医療振興協会 東京北医療センター

WiFi による無線ナースコール。
ナースコールのケーブルの取り回しや置き場所、断線への気遣いは、看護師のストレスとなっている。また、患者さんによってはナースコールを押すことを遠慮する方もあり、機能的な解決方法はないか模索していた。ナースコールを WiFi 経由にしたことで、ケーブルレスデザインを実現することができ、ケーブルの絡まりや断線問題を解決した。また、ハンドピースのデジタル化により患者の要望ごとにわかれたボタン実装が容易になった。これにより遠慮がちな患者さんであってもナースコールがしやすい設計となっている。

杖 立

金沢市立病院 看護部

ベッドに設置する蛍光テープ付杖ホルダー。
杖使用中の患者さんのベッドサイドに杖をかける所が無く不便であった。杖を簡単に立てかけて保管でき取り出せるものがあったら、患者さんも便利だと考え作成した。杖を出し入れる時の腕の動きが最小限となるようにホルダー側面にスリットを入れ、マジックテープで固定した。夜間使用時に杖を戻すところが見えるように蛍光テープを貼付した。筒状であり、杖を立て掛けしやすい。「杖はどこだったかな」と探さずに定位置にあるので、探すこともなく自然に手に取ることができる。

いるいるコール

金沢市立病院 看護部

ティッシュカバーや腕輪にナースコールを付帯する機能を持たせた。
ベッド上で動けない患者さんのナースコールをベッド柵に結んでおくと、ベッドの上げ下げで線がつっぱったり、ナースコールがベッドから落ちてしまう事があった。そこで、患者さんがナースコールを見つけやすく使いやすいようにしたいと思った。ティッシュ箱や患者さんの腕輪として身近なものにナースコールを取り付け利用しやすいようにし、ナースコールが滑り落ちないように滑り止めを付けた。

気づきMEMO

大阪市立総合医療センター

看護チーム内の交流を図るため、業務の中で気づいたこと、嬉しかったことなどを記入し共有する試み。
当院の救命救急センターは併設型独立救命救急センターとして原則 24 時間 365 日、乳児から成人まで多くの患者を受け入れており、繁忙度も高く、患者の流動性が早い。そのため、その場その場での対応になりやすく、業務を振り返る機会が持ちにくいこともあった。そこから看護チーム内の交流やチームワークを強化させる必要があると考えた。この状況を改善するために「気づき MEMO」を作成し、活用した。

コードブルーでも慌てない！『気道管理バック』

地方行政独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター

救急の現場で特に必要になる気道確保の際に使用する器具をひとまとめにするアイデア。
院内急変の対応では、まず気道の確保が最優先される。そこで気道確保に必要な物品一式がセッティングできるバックインバックを作成することになった。急変対応時に現場で挿管準備となると、このケースを開けるだけで必要物品が揃う。あとは、サイズなどを確認してセッティングするだけなので以前に比べると時間短縮になった。物品を使用し、新たに補充をする際にも一目でどの物品が足りないのかもわかる。

ベッドサイド用収容具

医療法人社団水生会 柴田病院

ティッシュ箱やリモコン等の小物の整理整頓に便利な、ベッド柵や店頭台にとりつける収容具。
入院時、患者さんが床頭台へ物を取りいく時にベッドから転倒するリスクがある。その転倒リスクを軽減し、患者の入院時快適生活を支援するためベッドサイド用収容具を考案した。布製品で軽量、洗濯も可能であり、5S 運動の整理整頓に有効である。ポケットの深さの調整をするなど改善して商品化を検討している。

お薬カレンダー

医療法人社団三宝会 志都呂クリニック

小物入れとマジックテープを使用したお薬カレンダー。市販品との違いは入れ物ごと取り外せること。
外来透析患者に定期薬の処方を出す際に市販のお薬カレンダーを使用したがり帰るとポケットから薬が落ちてしまった。テープで止めると外せなかったなど管理が困難になり残薬が大量に発生した。一つ一つをチャックまたはマジックテープで締めるようにしたので、持ち帰って広げて薬が落ちなくなった。また、ポケットが取り外せるように工夫したので、通院・デイサービスに行く際も薬の持参忘れがなくなった。

閉鎖式導尿バッグ

同和会 千葉病院

手作りの導尿バッグ用目隠しカバー。
ハルンバッグ等密閉式の排尿袋を使用している患者さんにとって、ハルンバッグを目隠しして、着脱が容易で、つけたままでも尿の性状や量の確認ができるものが欲しかった。ベッド臥床時、車椅子移乗時もハルンバッグを付けたまま目隠しができるよう、前面にスリットを入れて着脱もワンタッチ、廃棄時もカバーを外さずに可能、袋が膨らんでもマチ付きなので大丈夫である。着脱が簡単に目隠しになってとても良く、家族の面会、他の患者さんのいるホールに出ても違和感が少ない。

下腿安楽クッションセット

金沢市立病院 看護部

ふくらはぎを包み込んで褥瘡を防止するカバー。
栄養状態の悪い寝たきりの患者さんの褥瘡対策に日々取り組んできた。優しく包み込み下腿を保護できるようなクッションがあれば、褥瘡形成の発生も予防できると考え作成した。①下腿部のクッション部分を足首部と腓腹部の 2 か所にする事で、下腿にかかる圧力を分散できるよう工夫した。②膝下の空間を優しく受け止めることができる装具を追加した。褥瘡予防・下腿保温・安楽効果が見込まれる。

危険防止ミトン

医療法人慈恵会 小江原中央病院

軍手とクリアファイルを合わせた手作りミトン。
必要最小限で医療用ミトンを使用していたが、ミトンの使用は手指の動きが制限され手部の観察も困難な場合が多い。既存の製品以外で、手指が自由に動き、また、介護者と触れ合うこともでき、なおかつ安全なミトンはないだろうかと思い、作成した。この危険防止ミトンは、ミトンを外さずに観察が容易にできることや、握手等もできるため、スタッフも家族も喜んでいた。医療用ミトンで NG チューブ自己抜去が繰り返された患者さんを対象に使用した。

ラクラク選択!吸引チューブ & ゴーグルケース

地方行政独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター

吸引チューブ保管用の壁掛けホルダー。ビニールを再使用するためコストが安い。
当院では、吸引チューブなどは成人から小児用まで約 5 種類、それに加えて挿管時用のヤンカーや喀痰検査用の吸引チューブなど計 7 種類の吸引に関する物品を管理している。しかし、吸引チューブなどの長い物品を収納するものは既製品にはなく、しかも多岐にわたる種類のものを各ベッドに準備して置くためのスペース確保にもなかなか苦慮していた。壁掛け式にしたことで壁一面に数種類の吸引チューブを一目で確認することが出来るようになった。

着替え介助サポートバジャマ

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター

肩から袖の部分が開くことで、容易に着替えができるバジャマ。「着工連携」の成果。
緩和ケア病棟の看護師からのニーズをヒアリングし、試作と看護現場でのモニタリングによって生まれた。看護師の着替え介助の際の負担や、着替えによる患者本人の負担を大幅に軽減した。和式バジャマと洋式バジャマ双方のメリットを活かし、褥瘡の元となる凸凹を極力排除し留め具にはスナップボタンを方から袖にかけて採用した。清拭・保温ケアを必要とする患者さん、寝返りが打てない、体重が 80 kg を超えている患者さんに有効である。